

議員提出議案第 12 号

海洋資源の発掘と早期の実用化を求める意見書

上記の議案を提出する。

平成 25 年 3 月 27 日

提出者

6 番 筒 井 孝 尚	7 番 秋 家 聡 明
1 6 番 安 西 俊 一	2 1 番 清 水 忠
2 2 番 佐 藤 ゆうだい	2 3 番 米 山 真 吾
3 0 番 三小田 准 一	3 1 番 中 村 しんご
3 2 番 斉 藤 初 夫	3 3 番 牛 山 正
3 4 番 荒 井 彰 一	3 5 番 丸 山 銀 一
3 6 番 倉 沢 よう次	

葛飾区議会議長 梅 沢 五十六 殿

海洋資源の発掘と早期の実用化を求める意見書

一昨年 3 月に発生した東京電力福島第一原発事故により、現在、原発だけに依存しない社会の実現が求められており、新たなエネルギー資源の開発や再生可能エネルギーの利用拡大など、分散型エネルギー社会の構築が必要となっている。

そうした中、日本近海には国内の天然ガス消費量の約 100 年分にも相当するメタンハイドレートや、産業の発展にもつながる重レアアースが存在すると推定されており、新たなエネルギー資源として注目されている。

日本では、効率的な生産が期待できる「減圧法」によるメタンガスの連続生産に世界で初めて成功しており、本年 1 月 28 日には、海洋産出試験の実施に向けて、地球深部探査船「ちきゅう」が試験地点での準備作業を開始するなど、メタンハイドレートの技術開発における世界の最先端を担っている。

エネルギーの多くを輸入に頼っている日本にとって、将来のエネルギー安全保障を確立するためには、国内資源を開発し、供給源を確保する必要がある、メタンハイドレートは貴重な国内資源として 1 日も早い実用化が求められている。

さらに、南鳥島沖の日本の排他的経済水域内の水深約 5,600 メートルの海底には、多量

の重レアアースを含んだ泥が存在していることも、東京大学の研究チームにより判明した。

よって、本区議会は政府及び東京都に対し、メタンハイドレート並びに重レアアースの実用化を強力に推進するため、以下の事項を実施するよう強く求めるものである。

記

- 1 現在行われている採掘事業以外に、メタンハイドレートが存在する可能性のある他の海域でも採掘が開始できるよう予算措置を行うこと
 - 2 外交・経済・産業のことも踏まえて、南鳥島沖の重レアアースを早期に活用できるよう、調査費及び、採掘技術の研究への予算拡大を行うこと
 - 3 採掘技術を中心とした人材の確保や産学連携を強化し、民間投資を促す国家的プロジェクトとして、事業の安定化に資する予算措置を行うこと
- 以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。